

次世代物流のプラットフォーム作成と社会実装

プロジェクトの背景

本プロジェクトの出発点は、瀬戸内の離島で顕在化する”届かない”日常課題です。人口減少・高齢化が進む一方で、物流は船便・航空便に強く依存し、天候やダイヤに左右されて高コスト・遅配・配送対象外が常態化。医薬品や生鮮、日用品の入手が不安定となり、暮らしの質と事業継続、若者の定住意欲を損ねています。港湾や滑走路の増設は費用・時間の面で現実的でないため、既存インフラに最小負担で導入できる気球型の中距離空輸に着目。産総研・NEDOの助言を受けつつ、現地ヒアリングと試作検証を重ね、離島でも”都市並みの当たり前”を取り戻す持続可能な物流基盤の構築を目指しています。

商品・サービス

本土-離島の中距離区間を小型飛行船(気球)で一括輸送し、島内拠点で仕分けして地元配送網に繋ぐ統合物流サービスです。港湾や滑走路の増設不要で低コスト・短期導入が可能。住民・事業者はアプリで集荷依頼と到着確認ができる、自治体は非常時の優先輸送枠を確保できます。都市並みのスピードと価格感で、離島の「届く確実性」を標準化します。

フェーズ0

瀬戸内の1島で実証。
1日1便・週2運航、常温ポッド中心。
安全基準/運航手順を確立。

フェーズ1

2~3島に拡大。
簡易冷蔵ポッド導入、時刻表
便+緊急便を開始。
自治体・病院と優先輸送SLA
を締結。

フェーズ2

瀬戸内全域へ。
複数拠点ハブ化、日次複便制
へ移行。運航SaaSを外販。

前提条件

- ・対象地域：大崎上島
- ・人口規模6000人
- ・購買週間：月に2~3回ネット
通販を利用すると想定
- ・想定ユーザ数：若年層の15%
程度(約1000人)

ポイント

・気球×統合運行

小型飛行船(気球)で本土-離島を一括輸送し、島内拠点で仕分け→地元配送網へ。

港湾や滑走路の増設不要で低コスト・短期導入。

・確実性と速度

時刻表便+緊急便、モジュール式貨物ポッド(常温/簡易冷蔵)、運航管制・追跡SaaSで”都市並みの当日~翌日感”と災害時の継続運用を両立。

・地域価値の最大化

EC送料・遅配・対象外の課題を解消し、住民利便性と事業継続性を向上。自治体は非常時の優先輸送枠を確保し、地域格差是正と活性化に寄与。